

種名	<u>オ オ ミ ズ ス マ シ</u> <u>Dineutus orientalis</u> 
分類	コウチュウ目ミズスマシ科
地方名	カキムシ (新潟県)
形態的な特徴	成虫の特徴：体長約 6～7mm のミズスマシより大きい。体色は黒く青みがかった銅色に光り、前胸とさやばねの大部分の縁は黄白色に縁取られている。また、さやばねの先が尖っている。体は流線型で、いかにも目まぐるしい速さで泳ぐのにふさわしい形をしている。前肢は長くて獲物を捕えるのに適した形となり、中肢と後肢は短くて平たくなり、水をかく櫂の役目をしている。この仲間の大きな特徴は上と下に分かれた複眼で、上方部は水面上に、また下方は水面下に位置している。後肢はよく発達していて、水槽で飼っていると逃げてしまう。幼虫の特徴：幼虫は腹部の両側に長い毛状の鰓があって、呼吸と運動を助けている。幼虫の大顎はゲンゴロウに似て鋭く、内側に管があって、捕らえた小動物の体液を吸収するのに適した構造となっている。
分布	本州、四国、九州に分布する。
繁殖行動	成虫は、春から夏 (4月～8月) にかけて産卵し、12 日間位で孵化する。幼虫期間は 20 日間位で、成長した幼虫は水草を這い上がり、土中などに土繭を作って蛹になる。蛹の期間は 10 日間位である。成虫は土中、枯れ草の下などにもぐって越冬する。
生息場所	池沼、水田、小川などの一般に流れの緩やかな浅い場所に生息している。
食性	水面に落ちてきた小さな昆虫などを前肢で捕えて食べる。幼虫は水中でボウフラ、アカムシなどを捕えて体液を吸って育つ。幼虫はまわりに獲物が少ないと共食いを始める。
生息環境への配慮事項	○水質汚濁に留意する。幼虫の生息場所は流れがない水生植物が繁茂した空間が必要。 ○ミズスマシは泥を利用して、土繭を作り蛹になるので河岸に土が必要である。 ○この種の水生昆虫は垂直な護岸は登れないため、緩傾斜にする必要がある。 ○近年、ウンカやヨコバイなど害虫の昆虫成長制御剤の多用は、ミズスマシなど水生昆虫への影響が懸念される。護岸が保たれている池沼などであるため、水草の生える場所を残すような整備が望まれる。
その他	

引用文献：川の生物図典を改変